

2012 年度助成活動最終報告書

企画名：ミツバチの側からみた蜂群大量死の実態をひろめるプロジェクト

団体・個人名：後藤純子

1. 報告要旨

○250部お話を印刷し209冊配布しました。

お話を読んでみつばちの気持ちに立ち環境をみることができる、これが私の講話の切り口です。何度も繰り返したことで、講話内容も確立できたと思います。

○他のメディアとの連携状況

ミュージカルにする計画が申請中、結果は5月にわかります。

○英訳、

英語版がおかげさまで完成しました。

2/5から10人(6カ国)の方に、シェアと拡散をしていただきました。反応はまだですので、続けます。

○ダウンロード可能です

http://hatake-tanbokankyo.org/place/A_TALE_OF_ONE_QUEEN_BEE_201212_jp.pdf

http://hatake-tanbokankyo.org/place/A_TALE_OF_ONE_QUEEN_BEE_201212_en.pdf

2. 設定目標の達成状況

具体的にめざす目標・成果は達成できたか：①300部印刷し、ミツバチの生活を話し、この話を持ち帰ってもらうという活動をして、来年の3月までに300部渡しきること。②翻訳したものをメディアを通じて広める可能性を追求することと、来年の3月までに成果を得ることです。

① だいたい達成できた 印刷の質を高めたため予算内で250部印刷となったが、月末までにほとんど配布されと思います。

② 英語版の普及がまだ、未開発で不足している

目標達成度のめやすをどこまでクリアしたか：①部数の減少が目標達成度数

講演が貴重な体験になり、ひとつひとつは小さいが250部配布が見えてきた。

②進捗は折衝からです。基礎作りと心得て進みます。できるだけ多くの人に発信し、2週間ごとに戦略を立て直します。もっと多くの人に発信できると思います。

およそ2週間～ くらいに戦略を立て直せたと思う。

そのおかげで多彩な講演活動ができた。

上記のめやすに即して計った企画完了時の目標達成度をパーセントで自己評価すると：

- ① 85%
- ② 15%

3. 実施状況

8月	翻訳依頼 翻訳完成
9月	英語版ブラッシュアップ依頼 9/4 国際会議で22冊（自主制作）を配布 日本語版 150部印刷
10月	10/8 中央区エコまつり 30冊配布 10/20 日本橋てんてん祭 40部配布 英語版ブラッシュアップ 完成
11月	
12月	12/11 ニコチンビー上映会 8部配布
2013年 1月	1/18 川崎高校環境部 みつばちランチ 18部配布
2月	日本語版・英語版をアップ（協力：「畑と田んぼ環境」再生会） 日本語版 100部印刷 2/4 カフェオハナにてみつばちカフェ 3部配布 2/15 奄美大島宇検村で11部配布 ニコチンビー上映同時 2/16 加計呂麻島で26部配布 ニコチンビー上映同時 2/16 奄美大島名瀬で31部配布 ニコチンビー同時上映 2/24 神代植物公園で30部配布
3月	3/3 2013年度助成金申請公開審査会場にて 8部配布 3/6 野口種苗さんへ発送 1部 3/20 JA羽咋芝田元組合長に、次のバージョンにお言葉を書いてくださると快諾をいただく （JAでは自然栽培も選択肢として踏み出した勇氣ある方です） 3/29 高野誠鮮さん講演会を通じて、高野誠鮮さん1部手渡し 木村秋則さんへ発送2部

4. 成果物

1. [A TALE OF ONE QUEEN BEE 日本語版](#)
2. [A TALE OF ONE QUEEN BEE 英語版](#)

5. 実施による学び

もっとたくさんの人にがむしゃらに当たることを当初は予定していたが、出会った人ひとりひとり大切に深めていくことも、大切と学んだ。

6. ハイライト

今まで、自分が話して受け手が農薬被害に感じていることを聞く機会が少なかった。しかし、複数の聞き手により、それぞれの心や記憶にある農薬について、話をしてくれるのが、収穫でした。話をすると、質問の半分は、農薬の事でした。意識の高さ、適確さに驚かされました。(例「黒田先生」の話を聞いたなど)

講演で呼んでいただいた加計呂麻島は、第2次世界大戦中、特攻隊が出撃のために滞在していた場所の一つにあたります。

とても美しい場所ですが、数年前からミツバチが見えなくなったそうです。この島には400~500年前に移植されたデイゴの並木があり、咲くと南国情緒たっぷりな素晴らしい観光名所になります。これにデイゴヒメコバチというハチが大量発生し、虫こぶを作り、デイゴの木は枯れはじめています。沖縄南西諸島、すべてこうした状況だそうです。それを防ぐために年3~4回公共事業でネオニコチノイド系農薬を一本残らずふっているそうです。天敵昆虫で迎え撃つ方法も検討されたが、その天敵昆虫が島にもともといなかった昆虫になるので、島に入れられないと考えて、踏み出せない。(デイゴももともと島にない植物なので島人はどこかおかしいなと思いながら農薬を振っている。) 請け負う造園業者も、農薬振るのに違和感があるといっています。大切なさんご礁が崩壊しないことを祈ります。講演に来た方がみつばちにかわいそうなことをしていると(残念な気持ちを表す)、コメントくださいました。この話は直接講演に来た方と、その後の交流でやっと事情が詳しくみえてきたのでした。行かないと、この現実がわからないままでした。デイゴは蜜源植物です。ミツバチも通う花です。

みつばちには「虫も草も敵にしない」自然栽培しかない、と、木村秋則さんの講演に行きました。1000人近い人が聞きました。一席ものこらずつめて座っていただき、まだ立って聞く人がいました。その講演の最後は「みつばち」の写真で「小さい生き物が生きていける環境にしましょう。 私たちの世代が壊した環境を元通りにして次の世代に手渡しましょう」と、ありました。

木村さんにお礼を言いました。「みつばちのことを取り上げてくださりありがとうございます」と。そうしたら木村さんは「ぼくはミツバチがいなくなると困りますから」と おっしゃっていました。

木村さんの映画が6月8日に封切されますが、自然農の風が今年はたくさん吹くそうです。ぜひ「追い風」に乗りましょう。こうした情報は、活動から得られたものです。ありがとうございました。

日本の自然栽培をもっとも先進的農法と国際的に評価をえて、能登半島では世界農業遺産登録をされたそうで、ある意味、たたかわずして将来を制している事例だと思えます。子孫によりよい環境を残すのであれば、このような方法と、参考になりました。また、世界農業遺産登録を希望する地域を広げて、日本の農地を守ろうという志があります。 そのために日本中を講演し、市への査察を受け入れて可能性があるところはどんどん自然栽培を根付かせるためのシステム作りの相談に乗っておられます。もし、JAに、一緒に自然栽培の方向に進みたいと思う方がいたら、一度高野さんの講演を聞かれることをお勧めします。ご希望があれば、ご紹介させていただきます。

7. 支援

助成金を受けることで、散漫にならずに、少しずつでも進むことができます。
質問や相談に迅速な返答をいただき、ありがとうございます。